

タイの農村で学ぶインターンシッププログラム 13期生募集要項

はじめに

このプログラムは、国際協力や環境保全、NGOに関心がある人をタイの農村に6ヶ月間派遣し、国際協力に関わる上での視点を養うプログラムです。このプログラムを通じて、国際協力や開発を考える上での基礎的な考え方を学び、将来はNGO活動をはじめさまざまな分野での社会活動を担えるようになることを目指しています。地域への貢献や現地の村人を手伝うのではなく、参加者が農村開発の現場に身を置いて、村人から「学ぶ」ことを重視しています。知りたいこと、学びたいことがあれば自発的に行動を起こせるような自主性を持った人のためのプログラムです。

インターンシッププログラムの目的

国際協力や開発活動を行う上で、「相手の文化・習慣を尊重すること」や「住民主体の開発」といった事がひろく謳われています。しかし、開発学など机上で学んだ知識だけでは現地住民の暮らしぶりや文化、慣習を十分に考慮した活動は行えないばかりか、ときに現地住民の暮らしを壊すことにつながります。

そもそも「途上国」と呼ばれる地域の開発がなぜ必要で、誰が何のために、どのように行うべきものなのでしょうか。本当に役に立つ「開発活動」はどうあるべきなのか、そのために私たちは何を知らなくてはいけないのか。こうした根源的な問題意識に立ち戻って、国際協力の対象となる現地住民の視点に立って、もう一度考えるのがこのプログラムです。

プログラムを実施していく中で、日本で自分が意識せずに行ってきたことや、生活のあり方、自分の考え方が、少なからず途上国と呼ばれる国に影響し、その影響が知らぬ間に都市と農村の格差を生み出している現状について、当事者の立場に立って感じてもらいたいと考えています。自分のこれまでの価値観や今まで机上で学んだ知識を一から問い直し、これから先の新たな道を見つけるように参加者とJVCはインターン生と共にプログラムを作っていきます。

インターンシッププログラムが目指すもの

6ヶ月のプログラムを通して、以下のことを学んでいきます。

- ① 日本で自分が意識せずに行ってきたことや考え方が少なからず社会に影響し、その影響が知らぬ間に北と南の国、都市と農村の格差を生み出している現状を認識することができるようになること。
- ② 国際協力を自分の足元の生活との関わりの中で捉え、国を超えた協力のあり方に対し、自分の身の回りから行動に移せるようになること。
- ③ 人々が持つ「生きる力」や「地域の智慧」を認識でき、自然と人間の調和を目指す持続的な社会のあり方の実現に向けて行動できるようになること。

1. 募集概要

募集人数：4名

参加費：59万円 ※国際航空券、海外旅行保険を含めた価格です。

滞在地：タイ 東北部 ムクダハーン県、コンケーン県、ヤソトーン県など

研修期間：約6ヶ月間（2012年9月末～2013年3月末）

応募締切：2012年5月25日（金）当日消印有効

応募条件：

- ・ 自分から積極的に学ぼうとする姿勢を持っていること。
- ・ 国際協力、環境保全、NGOなどに関心があり、このプログラムを通して何を学びたいのかという目的意識をはっきり持っている人。
- ・ 異文化のなかで周囲の人々と協調性を持ってコミュニケーションをとり、積極的に行動できる人
- ・ 現時点でタイ語は話せなくてもかまいませんが、4週間のタイ語研修後も独力でタイ語力を伸ばす意志がある人
- ・ 年齢不問。英語力不問。
- ・ 体力に自信のある人

※自分探しや海外での変わった体験、農村ホームステイ、タイでのロングステイを希望する人のためプログラムではありません。プログラムの趣旨を十分にご理解いただいた上でご参加ください。

参加条件：採用後、JVC 非会員の方は JVC 会員になっていただくことを参加条件とします。また、渡航前に海外旅行傷害保険への加入を参加の条件とします。

責任：研修生は自身の意思において研修に参加し、万一身の回り品の損失や不慮の事故などの被害に遭遇した場合においても海外旅行傷害保険によって対処していただきます。受入れ先と問題が生じた場合は JVC が調整します。

応募方法：所定の申込用紙と志望動機作文（1000字程度）を郵送、Email、FAX のいずれかで JVC に提出してください。※応募書類は返却しません。

採用について：書類選考後、面接を行います。面接は JVC 東京事務所でを行います。面接会場までの交通費はご自身でご負担ください。

2012年度タイの農村で学ぶインターンシッププログラム募集要項

書類提出締切	2012年5月25日
面接日時	2012年6月中旬
採用者決定	2012年6月下旬
研修開始	2012年9月末

帰国に関して：2013年3月末の帰国をもってプログラムを修了とします。長期滞在を希望する際は、一旦帰国をしてから個人として再渡航してください。

修了後の進路：修了後の就職の斡旋は基本的にはしていません。修了後に JVC スタッフになれるわけではないことを、予めご了承ください。

2. プログラム(2012年9月末～2013年3月末まで)

時期	研修概要	期間	場所	内容
9月末	日本での事前研修 研修終了後、渡タイ	5日間	研修：JVC 東京事務所 農業実習：千葉県	NGO を取り巻く世界情勢や農村開発について、国際協力の基礎学びます。また、日本の農村・農業の変遷を学習し、約2日間の農業実習を行います。
10月	タイでの研修	約1ヶ月	タイ東北部 ムクダハーン県 カオデー農園	タイの農村に派遣される前に身に付けておくべき農村での過ごし方を農業実習やタイの NGO 訪問などで学んでいきます。タイ語の語学研修もこの期間に行いません。
11月 ～3月	農村への派遣	約5ヶ月	タイ東北部の農村	NGO や農民グループなどの活動が入っている農村へ派遣し、実際の村人の暮らしを体感すると共に、タイの農村・農業における課題をインターン自身で見つけていきます。 途中、タイの NGO を訪問し、タイにおける農村開発のあり方を学びながら、NGO の役割を考えます。
3月	最終報告会 帰国	2~3日間	東北タイ カオデー農園	約6ヶ月間の活動報告を行い、プログラムを締めくくります。
帰国後	帰国報告会	1日	東京	日本から応援していただいた方々に向けて報告会を行います。
	報告書提出	帰国後1ヶ月以内		報告書提出をもってこのプログラムを修了します。

3. 参加費に関して

参加費に含まれるもの、含まれないものに関しては以下の通りとなっております。

○参加費に含まれるもの

- ・ 国際航空券（タイー日本往復）
- ・ 海外旅行傷害保険（6 か月分）
- ・ 日本国内研修費（講師謝礼、農業実習費、農業実習時の宿泊費、日本国内研修時の交通費（研修開始から日本出国まで））
- ・ カオデー農園研修時（約一ヶ月）の滞在費
- ・ ビザ代、ビザ取得にかかる交通費（個人的な都合で指定外の場所でビザ申請を行なう場合は、それにかかる交通費は自己負担となります）
- ・ タイ語研修費
- ・ プログラムに関わるタイでの交通費、宿泊費
- ・ プログラム期間中に実施するスタディツアーの経費（交通費、滞在費、調整費、講師謝礼）
- ・ 帰国報告会時の宿泊費と報告会会場までにかかる交通費
- ・ プログラム運営費

○参加費に含まれないもの

- ・ 日本研修中の滞在費（東京 2 泊）、食費、自宅から東京研修場所までの交通費（出国時、帰国時含む往復）
- ・ ホームステイ先の食費、光熱費を含む滞在費（一ヶ月約 1 万円弱かかります。5 ヶ月分であると、最低 5 万円弱はかかります。）
- ・ 個人的なタイ国内交通費、宿泊費
- ・ 生活雑費、お土産代
- ・ 病気、怪我、事故の場合、海外旅行傷害保険でカバーされない医療費、病院までの交通費
- ・ 事前の予防注射にかかる費用（破傷風に関しては必須とします。）

4. タイでの受け入れ団体の紹介

○農村派遣前研修

カオデー農園（ムクダハーン県）

タイ東北部にある自然の循環が目に見える形でデザインされた農園。元 JVC タイスタッフとノンジョック自然農園（1998 年～2003 年までに JVC が実施した自然農業のモデル農園）の研修生が自給的な自然農業を営みながら、スタディツアーや研修を受け入れています。

ここに約一ヶ月間滞在しながら研修を行ないます。約 80 時間のタイ語研修と農業の研修をすると共に、農村に滞在する前の心構えを学びます。

○農村派遣

派遣先は、研修生との話し合いをもとに調整してきます。派遣後、JVC から仕事や課題を与えることはしません。まずは自分が何をしに来たのか、何を学びたいのかを滞在先の家族に伝えるこ

とから始めます。原則として、参加者は農村に一人ずつ派遣され、現地コーディネーターが随時フォローアップします。

ポン郡有機野菜市場ネットワーク（コンケン県ポン郡）

2000 年に JVC タイによる地産地消、地域経済・資源の循環、生産者と消費者の関係構築を目的とした「地場の市場プロジェクト」から始まった活動。ポン郡内の有機農産物生産者が、町の消費者に直接農産物を売る市場を運営する。元々、村内の小さな朝市の活動として始まり、2002 年からはポン郡の郡庁前の敷地で毎週月曜と金曜に朝市を行うようになった。現在の生産者会員数は、200 人以上。

これまで地元で生産できるものでさえ外部から購入するという状況がつくられていたが、地元で生産されたものを地元で消費する場ができたことで、お金のみならず、地域の資源が村内で循環するようになった。収入の向上だけでなく、子ども、女性など幅広い層がこの市場に参加でき、村が活性化された。

JVC のプロジェクトとしては 2005 年に終了し、現在では生産者会員による「市場委員会」を中心に運営されている。

アースネット財団（ヤソトーン県）

ヤソトーン県で有機農業を普及している団体。有機のお米を作り、主に海外で販売をしています。農民の農業での自立を目指し、農業協同組合なども立ち上げ、農業に関する様々な研修を行っています。

5. 農村での生活について

○滞在先ってどんなところ？

滞在の拠点となるのはタイ東北部の農村です。タイ東北部の人口はタイ総人口の約三分の一を占めます。東北部は農業地帯であり、主な農産物の一つに米が挙げられます。不安定な降水に依存する天水依存の田で行われており、それがタイにおける貧困地域と呼ばれるその他にサトウキビやキャッサバの生産地でもあります。滞在先はそんな中でも有機農業や自然農業を活発に行なっている地域です。

○どんな生活を送っていくの？

農村派遣前の研修

タイ語研修:タイ語講師からタイ語を直接学びます。1日約4時間の授業を合計80時間を目安に、農村に行ってコミュニケーションに困らない程度のタイ語の修得を目指します。

農業研修：タイにおける基本的な自然農業について実習を通して学びます。農園滞在のおよそ半分は農作業になります。毎朝毎晩の家畜や野菜の世話はもちろんのこと、タイにおける農業の状況と自給的な農としての考え方を学びます。

宿泊所：個人の農園の協力を得て研修を行なっています。宿泊所は基本的には数人との共同生活となります。農園では共同で自炊します。農村派遣前研修（約一ヶ月分）の滞在費、食費は参加費に含まれています。

農村派遣後の過ごし方

各農村に 1 名派遣をします。農村では村人宅にホームステイをします。寝食を共にし、滞在先が農民である場合は農作業を手伝いながら農民の生活を長期間体験していきます。滞在先によっては、NGO 事務所が拠点になる場合もあります。原則、1～2 箇所に滞在するようになりますが、各インターン生の関心に合わせて、都度調整をしていきます。農村滞在時は参加者が食費、光熱費を含めた滞在費を支払います。1 ヶ月約 1 万円が目安です。

6. 予防接種に関して

破傷風の予防接種は事前に受けてください。その他、狂犬病の予防接種などを推奨します。

○インターン生の様子

インターン 11 期生、12 期生の様子は JVC のホームページに掲載しております。応募する前に必ず読んでください。

<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/thailand-village/>

インターンブログ「タイの農村で学ぶ日々」

以上